

カニ籠によるズワイガニ漁期前調査

当センターでは、毎年 11 月 6 日のズワイガニ漁解禁に先駆け、漁業及び北部の観光資源として重要なズワイガニの分布状況を把握するために、8～10 月に海洋調査船「平安丸」でカニ籠を使った漁期前調査を行っています。今年も、京都府沖合の 11 定点（水深 230-300 m 域）で延べ 244 籠を用い、カニの成長や成熟状況を把握するために採集したカニの甲羅の幅を船上で測定するとともに、移動や生き残りを調べるために標識を装着してその場で放流しました。

今年の採集個体数については、過去 5 か年平均に対し、雄ガニが 103%で平年並み、雌ガニが 66%で少なめという結果でした。雄ガニは、商品価値の高い大・中型個体（甲幅 11cm 以上）の割合が高めであり、漁獲金額の増加が期待されます。

この調査結果は、今漁期の漁場選定など府内の漁業者の効率的な操業に役立てられます。



餌のサバをカニ籠に仕掛ける



ズワイガニの甲幅の測定